

2008.05.01

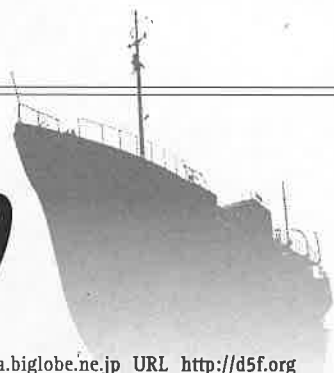
No.344

(4・5月合併号)

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



マーシャル諸島共和国 トメイン大統領が来館——四月八日午後——

悲劇が二度と起きないように……



大統領（中央）と握手する川崎会長、右はアーリン大統領夫人。一行には協会から「展示館の図録」「絵葉書」「建造六〇年記念手ぬぐい」などが記念に贈られた。写真・岡壽聡介

四月八日、マーシャル諸島共和国のリト
ワク・トメイン大統領をはじめ政府高官、
フィリップ・カプア駐日大使が第五福竜丸
展示館を訪れました。

トメイン大統領は、今年一月に就任、日
本へは初の公式訪問で、同国大統領が第五
福竜丸を見学したのも初めてです。

当日は、大変風雨の強いなかを午後三時
に到着、第五福竜丸平和協会の川崎昭一郎
会長、山村茂雄理事をはじめ職員やボラン
ティアの会メンバーが迎えました。一行は
川崎会長の案内で、船体の大きさと木造で
あることに驚きながら、福竜丸の現物資料
や解説パネル、展示写真などについて丹念
に見学、マーシャル諸島の被害者の解説や
写真パネルの前ではとりわけ関心を示して
いました。

大統領は、「このような恐ろしい悲劇が
二度と起きないことを願っている。」「今も
故郷の島に帰ることが出来ない人々が大勢
いる。核兵器が二度と恐ろしい顔をもたげ
ることのないよう祈っている」と語りまし
た（関連2面下）。

今回来館したのは、トメイン大統領とア
ーリン・トメイン大統領夫人、フレッド・
ペドロ官房副長官、ネイジョン・レマ・エ
ドワーズ儀典長、ヨランダ・ネド大統領補
佐官、ポビー・ヤコブ大統領警護官、フィ
リップ・カプア駐日大使、アルフレッド公
使。外務省アジア大洋州局の担当官が引率
し、都東部公園緑地事務所の担当者が同席
しました。

駐日マーシャル大使が講演

「核のない世界へ向けて」

五月一二日早稲田奉仕園内の教会で、フィリップ・カプア駐日マーシャル大使と、第五福竜丸元乗組員大石又七さんによる講演の会がありました（VIPクラブ主催）。ここではカプア大使の講演を紹介します。

核被害の共通の体験

カプア大使は「核のない世界へ向けて、マーシャル諸島



の経験から」と題し、日本とマーシャル諸島は、核実験の被害を受けるといふ共通の体験を持つていること、それが人類の経験しうるもつとも残酷な経験であることを多くの人にも知ってもらいたい、わかちあいたいと述べました。

当初、マーシャルの人々は「現在開発されている核兵器は、世界に平和をもたらすもの」というアメリカの説明を受け、たとえ法外な犠牲を払うにしても、自分たちの土地や家を提供することは世界平和をもたらすことだとと受止めたこと、放射性降下物の被害は限定された範囲と説明されたいたにもかかわらず被害の実態が想定を大きく上回り、発表されていた回数よりも多かったことが後に判明したことなどが語られると、会場内からはため息や驚きの声が聞こえました。

アメリカとの関係

これまで相当額の援助や汚染除去、インフラ整備補助はあったものの、現在医療保障の資金が底をついてしまい、追加の支援を求める嘆願書が米国議会に提出しているが、現政権の対応はきわめて鈍いことなども紹介されました。

健康被害や土壌汚染、自然界の放射能汚染はマーシャルにとって『負の遺産』だが、「いずれ世界は平和になると信じます。そのことを若い人々が立ち上がり伝えていく必要があります。核兵器により愛する者を失うつらさ、生き残った者の苦しみを私たちはともに知っています。日本人が核拡散に対し勇気を持って立ち向かってきた歴史に敬意を表します。今こそ手をとりにあつて核兵器廃絶とともに責任を担っていきましょう」としめくくりました。

大石さんは、被爆者の心境とビキニ事件について報告、参加者からは知らないことがたくさんあった、憎しみの感情を乗り越えて平和を考えていきましようとのコメントなどが出されました。その後、あいさつなど交流が行われ、会の顧問・駐日フイジー大使 した。

朝日新聞 二〇〇八年四月九日（国際）

マーシャル諸島大統領と会見

水爆補償米は強化を

放射能の被害巡り

来日中の太平洋・マーシャル諸島のリトクワ・トメイン大統領は8日、国防・安全保障の補償を要する米国の自由連合協定を改定し、米国の40・60年代に同諸島のビキニ環境で実施した水爆実験による健康被害、放射能被害の補償強化を盛り込むべきだと考を示した。朝日新聞記者と都内で会見して明らかにした。

今年一月に大統領に就任したトメイン氏は、04年に発効した現在の改定自由連合協定（期間20年）について「核実験で受けた被害の補償が盛り込まれていない。現実問題としてマーシャルの人々は病気であり、土地は放射能で汚染されている」と指摘。①（確



来日中の太平洋・マーシャル諸島のリトクワ・トメイン大統領は8日、国防・安全保障の補償を要する米国の自由連合協定を改定し、米国の40・60年代に同諸島のビキニ環境で実施した水爆実験による健康被害、放射能被害の補償強化を盛り込むべきだと考を示した。朝日新聞記者と都内で会見して明らかにした。

ら58年まで計67回の核実験が行われた。54年の水爆実験「フラボー」後に米国の被曝した島民らに行った人体研究プロジェクト4・1-1は、意図的な人体実験だった可能性も指摘されている。トメイン氏は「4・1がどういふものであったかを私たちはよく認識している」とし、この研究についても米側に補償を求めていく考えを強調した。

一方、海抜数センチしかない同国では「（地球温暖化で）海面が上昇し、農作物が（塩害による）被害を受け、海岸線も浸食されている」と指摘。福田内閣が提議する「クール・アース構想」を「強く支持する。小国が存続していくためには（構想に）参加する必要がある」と語った。また日本の国連常任理事国入りや、国際捕鯨委員会（IWC）における日本の立場についても支持を表明した。（南島信也）

展示館はわたしの タイムカプセル

高田 秦一

常設展示のケースには、ビ
キニ事件当時に集められた署
名用紙の現物を展示していま
す。その中の一冊、その一ペ
ージにご自分の署名をみつけ
られた高田泰一さん（北海道
北広島市在住）から一文を寄
せていただきました。

五四年前の自分に会える
は思ってもみないことでした。
でも確かにそこには自分の名
前と筆跡があったのです。

ビキニ島の水爆実験で第五
福竜丸が被災した年の初夏、
私が少年時代の杉並区の和田
や堀ノ内では魚屋の菅原おば

さんが近所中で「水爆反対の署名」を集めていました。中学一年生の私は、民主主義になった日本ではそのようにして国民の思いを政治に反映できると、学校で習ったばかりでした。

初めての署名。私の前後の署名者は知らない人ですから、街頭署名だと思えます。堀の内の人出のあるときといえは毎月三のつく日・お祖師様（妙法寺）の縁日でしたから、その人ごみの中でおぼさんの肩から架かる署名簿を前にしたのでしよう。鉛筆を持つ指に力が入るたびに画板が揺れます。「右に同じ」をテ



展示ケースの原水爆禁止の署名簿と高田さん

ンテンで略するのが大人のルールであるように思い、そのようにして一生懸命署名した自分を、いとおしく思い出しました。

それから一〇年後、そんなことをすっかり忘れて、職場にばれたら困るな一と思いがから京都・大阪で開催された第十回原水禁世界大会に地域を代表して行ってきました。直後に札幌に転勤となり、それから幾度も転居をしたのですが、その代表バッジが捨てられず今も筆記用具の引き出しに入っています。四〇年以上も昔のことを、今も無意識

に引きずっている自分がおかしくもなりますが、苦しいたびに揺れる心の「お守り」のようでした。

二〇〇七年一二月に用事があって上京した折に、第五福竜丸展示館をスケジュールに入れることができました。偶然その日に「被爆者認定の見直しを訴える集会」があることを同行の友人に知らされ、共に折鶴をつないで厚労省を取り囲むデモの隅に飛び入りして、五四年前と今日とが結びつき、その足で念願の第五福竜丸に面会したのです。

展示ケースの中のその署名

簿のページは二段書きになっていて用紙を節約してあり、手にした鉛筆だって貴重な時代でした。

人類はこのことを決して忘れてはいけない。ここを子どもたちが訪れて同じように感じて帰っていくのを見て、自分も無駄には生きて来なかつたと、心地よいやすらぎを覚えてつつ展示館を後にしました。

「第五福竜丸展示館にあなただの署名が展示してあるよ」と北海道まで知らせてくれた姉に改めて感謝しているところです。

何度でも来よう。何度でも読もう「読む証言」。思い新たに決して忘れない意志を確認するために。何度でも来よう、何度でも学ぼう、時間をかけてゆっくり見学しよう。今度来る時はもう一人誰かを連れて来よう。

若者を連れて来よう。人間が生きて延びるために、こんな過ちをくり返さないために。何度でも訪れよう第五福竜丸さ

来館者ノートから

ん。（千葉・63歳）
細かいことまでは知らずにいました。パネルや映画を通して改めて核兵器廃絶をたたかいたい

らねばと思いました。展示館の維持に全力をあげましょう。（埼玉・63歳）
新人バスガイドの研修です、

すっかり勉強します（東京）
初めて来ました。被爆者の問題はまだまだ終わりませんね。日本人皆の問題です。（91歳）

とても久しぶりに第五福竜丸に会いに来ました。はやぶさ丸として、ヘッドロにまみれてつながれていたのは遠い昔。今もこうして大切に保存されてあってとてもうれしく思いました。（山梨）

第五福竜丸の平和学習 生徒達とともに歩んで

榛葉文枝

第五福竜丸との出会い

私が初めて第五福竜丸と出会ったのは一九八三年秋、元第五福竜丸の乗組員・大石又七さんのお話を聞くために展示館を訪れた時のことでした。今から二〇年以上も前のことになります。

私の勤務校である和光中学



大石さんと中学生たち

校の生徒六人と一緒に「平和に生きる権利を求めて」という学級テーマで、一つの班が第五福竜丸のことを調べて、文化祭に発表することが目的でした。

言葉を選びながらポツリポツリと語る大石さんの話は初めて聞く事ばかりで、生徒達は率直に質問したり感想を述べたりしていました。それまで事件について語る事のなかった大石さんですが、純粋な中学生なら、と語ってくれたようです。経験した人にしか語れない重い言葉に耳を傾けた貴重な時間でした。

それ以来、福竜丸や大石さんとは長いお付き合いになり、展示館に足を運んだり和光中学校で話をさせて頂いたり、核のこと平和のことを一緒に考えてきました。

和光中学生 模型船に挑戦

私たちとの出会いをきっかけに、大石さんはビキニ事件が忘れ去られることのないようにと、福竜丸の模型船作りに着手しました。一号船は和光中学校に寄贈され、その後展示館を始め広島、長崎、マニラなど八隻が大石さんの元から次々と出航して行きました。

この話を知った二〇〇三年度の和光中の三年生八人は総合学習のテーマで「模型船づくり」を選び、大石さんの手ほどきを受けて模型船作りに挑戦しました。大石さんのお宅に押し掛け、ビキニ事件の真相と大石さんの思いを聞き取った後に、船を作り始めました。船体の原型はほぼ整っていたものの、慣れないヤスリや切り出しを使つての作業は遅々として進まず、帆や部品など細かい物作りにも時間がかかりました。それでも苦労の末やっと完成し、昨年秋季埼玉県にある「丸木美術館」に寄贈させて頂きました。

美術館には原爆の図第九

部「焼津」という大きな絵が飾られています。福竜丸と焼津の漁師が描かれている絵です。その絵の脇に模型船を展示させて頂きました。大石さんと和光中学生の合作とも言ふべき模型船が、平和への思いを乗せて展示されるにふさわしい場所を選んで頂いて感謝しています。

誰かが伝えなければ

昨年夏『ビキニ事件の表と裏』（かもがわ出版）という大石さんにとっては三冊目の著書が出版され、好評で版を重ねているようです。この本で「次代を担う若者達に読んで欲しい」と大石さんは述べています。また「この事件を風化させてはならない」と決意も新たに「誰かが伝えなければ」と大石さんは本の中で訴えています。

和光中学校では、折りに触れて「平和」について学び考えることを大切にしてきました。大石さんや福竜丸との出会いもその中から生まれてきたものです。

生徒たちと 平和を考え学びあい

中学生に語り、活動を共にする事を通して私は沢山のことを学んできました。ビキニ事件から五〇年、世界では大量の核兵器が今なお存在し、日本では平和憲法の存続すら危ぶまれる昨今です。こんな時こそ展示館を先頭に、多くの人に語りかけ福竜丸を通して核兵器廃絶と平和への道と一緒に考えていきたいと思うこの頃です。（しんばふみえ／和光中学校非常勤講師、第五福竜丸平和協会評議員）

第五福竜丸平和協会 賛助会員ご入会のお願い

協会の活動を支えてくださる賛助会員をよびかけています。周りの方々をお誘いください。ニュースの見本、申込用紙などお送りします。事務局までご一報下さい。

電話 03 (3521) 8494
URL <http://d5f.org>



男鹿さんの作品
(上) 沖縄の海岸
(下) ウミガメと少年



特別展 男鹿和雄が描く
ヒロシマ・ナガサキ・オキナワ
ウミガメと少年
第五福竜丸と海へ
開催のご案内

「となりのトトロ」「もののけ姫」「平成狸合戦ぽんぽこ」などスタジオジブリ作品の美術監督をつとめた画家の男鹿和雄さんが、吉永小百合さんの原爆詩朗読のCD「第二楽章 広島・長崎」と「沖縄編 ウミガメと少年」のブックレットの挿絵として描いた広島・長崎と沖縄編の作品による展覧会が、第五福竜丸展示館で開かれます。

このたび「ウミガメと少年」野坂昭如作・男鹿和雄絵の本が徳間書店から刊行されますが、今回の展示はそのために新たに描いた作品もふくめ、「ウミガ

メと少年」の絵二二点、広島・長崎一四点です。

男鹿さんの作品はいずれも心に染み入るような優しいタッチと懐かしさにあふれて多くのファンを魅了しています。第五福竜丸展示館での展覧会のタイトル「ウミガメと少年 第五福竜丸と海へ」は、沖縄戦を描いた野坂さんの秀作に込められた想いとともな平和を希求しての航海を、と願うものです。

会期は、沖縄戦の慰霊の日の翌日六月二四日から八月一七日まで。沖縄戦、世界初の核実験の日、広島の日、長崎の日、敗戦の日を含む「戦争と平和を考える」夏に開かれる特別展にぜひご来館ください。

なお、会期中のイベントとして「子どもワークシヨップ」や吉永小百合さんの「ウミガメと少年の朗読CD鑑賞の会」などが開かれます。詳しくは事務局にお問合せを。

秋の企画展は
「原爆ドームと第五福竜丸——市民が守った原水爆の遺産」

今年は第五福竜丸の保存がよびかけられて四〇年です。これ

を記念した特別展が九月二三日から始まります。

福竜丸が東京水産大学の練習船「はやぶさ丸」として使用され廃船になったのは一九六七年の三月、解体業者に売却された船体は六月ごろに夢の島に曳航係留されたと推測されます。

翌六八年三・一ビキニデーの全国集会のなかで、江東区の代表から第五福竜丸が夢の島の海面で傾いていることが報告され、保存についての検討が提起されました。

三月一〇日の朝日新聞「声」欄に武藤宏一さんの投書「沈めてよいか第五福竜丸」が掲載され、これが契機となり第五福竜丸を保存するうごきが始まりました。武藤さんの投書には「原爆ドームを守った私たちの力で、この船を守ろう」とあります。一九六六年から六七年にかけて原爆ドームの保存のための募金が全国から寄せられ、ドームの大規模な保存工事（第一次）がおこなわれました。

ドームも第五福竜丸も市民の平和への願により守られた。被爆国の市民のねがいを結んだ二つの原水爆の遺産。ドーム関連の資料は広島市より提供を受け、その保存と市民の声を展示

し、市民の平和への願いを改めて伝える企画展です。

二〇〇八年度の事業計画の概要・理事会にて確認

財団法人第五福竜丸平和協会は、三月二三日に評議員会と理事会を開催し、本年度の事業計画について確認しました。おもな計画は以下のとおりです。

* 第五福竜丸の保存がよびかけられて四〇周年、財団設立三五周年にあたり企画展など記念事業をおこなう。

船体の長期的な保存のための専門家による委員会の発足をすすめたが、本年はその本格的な作業を開始する。

一二月一日に新公益法人制度の施行を迎えるが、これに呼応した当協会の認定申請の準備を整える。

来館者の増加への働きかけを引き続きおこなう。とくに小中高校への地域的な働きかけをすすめる。

巡回展の開催を広げる広報・宣伝のとりくみをすすめる。マシナル諸島の核被害についての巡回展示用のパネルを新たに製作する。

I N F O R M A T I O N



お花見平和のつどい 2008年

今年で8回目となる「お花見平和のつどい」が、4月5日開かれました。

第五福竜丸のエンジンを「夢の島へ」の市民運動のとりのくみからエンジンの都による展示の実現を記念して2001年4月に初めて開かれ、以後毎年4月の第一土曜日に福竜丸エンジンと運動の記念に東京地婦連により植樹された八重紅大島桜のもとにつどってきました。

今年は、これまでで最も桜が見ごろの暖かい1日となり、昨年亡くなられ、このつどいのリーダー役だった田中里子さんを偲びながら80人余が参加しました。

東京地婦連の水野英子さんの開会のよびかけで幕をあげ、「私の平和トピックス」と題して、空襲の体験や原爆展運動のとりのくみなどが話されました。

午後は、展示館内で「今年の特別報告」として、第五福竜丸平和協会から「エンジンと第五福竜丸のいま・・・保存のよびかけから40年」について、原爆症認定集団訴訟東京原告団の山本英典さんからは「原爆症認定問題ってなに」と題して、集団訴訟の全国のたたかい、裁判勝利という前進のもとで、政府も原爆症

認定の審査基準の見直しをせざるをえなくなった現状、前進面と問題点について報告がありました。

最後のワイワイコーナーは、広場を会場に対話の輪をひろげ、主婦連の兵頭美代子さんの閉会のことばで閉幕しました。

新木場駅コンコースに 掲示板を設置



第五福竜丸展示館と東京スポーツ文化館は、共同で新木場駅のコンコースに両館のポスターを貼りだし、しおりやイベントチラシを入れるコーナーをつけた掲示板を設置しました。

これは昨年来、地下鉄メトロの新木場駅に要請し、設置許可を得たもので、駅構内から外に降りる階段・エスカレーターの上のポスター掲示場所の左側に置かれました。

掲示板には夢の島公園への順路も表示されています。

ボランティアの会 活動が紹介されました!

江東区ケーブルテレビ「江東ワイドスクエア キラリ江東」で、ボランティアの会の活動が紹介されました。番組ではガイドトークや「3・1ビキニ記念のつどい」をサポートする様子、メンバーの思いなども紹介。3月6日から8日まで放映されました。

また、地域のタウン誌「江東・墨田らいふ」4月号でも展示館とボランティアの会の活動が紹介されました。

建造60年記念手拭いが額に

全労災東京都本部の見学で来館された栗原まささんが、建造60年記念手拭いを表装しご寄贈下さいました。現在ビジュアルルームに展示してあります。

各地で福竜丸パネル展

3・1ビキニデーをはさむ2月21日から3月13日までの2週間、奈良・大和高田市の土庫病院内でパネル展が開催され、最終日に市田真理学芸員が「ビキニ事件が今に問うもの」と題して講演を行いました。

また、4月7日から11日まで東京・あきる野市役所内でも福竜丸展が開催され、安田和也学芸員が「第五福竜丸保存のよびかけ40年」と題して講演を行いました。

